



今回は、ベトナム研修5日間の参加記録です。

◇ ベトナム研修で、ヴィン、ハノイ、フエ、ホイアンの各都市を訪問しました

日 時：平成31年1月20日(日)～25日(金) 参加者：希望生徒17名、引率教員2名
訪問先：ファンボイチャウ高校、JICAベトナム事務所、フエ大学、フエ王宮・ホイアンの町並み

◇ 2日目（1月21日） ファンボイチャウ高校での交流

- 朝7時から始まるファンボイチャウ高校の全校朝礼に招かれました。全校生徒と先生方の盛大な出迎えを受け、セレモニーが始まりました。
- ベトナム国歌斉唱に続き、関高校訪問団の歓迎セレモニーが始まりました。生徒代表のスピーチ、浴衣を着てのパフォーマンス、歌やダンスの披露と続きます。関高側も、関高校歌、引率教員と生徒代表（木村優花さん）のスピーチで応えました。
- その後、ファンボイチャウ高校の生徒に案内され、教室へ移動しました。待ちに待ったベトナムの高校生や先生方との交流が始まりました。
- まずはおたがいにスライドを用いたプレゼンで交流しました。関高側は関市や関高校の紹介、日本の若者文化やSGH活動で行っているインバウンド誘致をテーマに、英語でプレゼンを行いました。
- 続いて、シャインカービングのワークショップ。二人一組で、新感覚の彫刻刀アートに挑戦、会話も弾みました。関高校の訪問を機に、ファンボイチャウ高校には日本語コースができたそうです。積極的に日本語で話しかけてくる生徒も多数いました。
- 午後はヴィン郊外のホー・チ・ミン廟とファン・ボイ・チャウの生家跡を訪問。独立運動や革命の時代に思いを馳せ、一同で献花し黙禱を捧げました。



◇ 3日目（1月22日）JICAベトナム事務局訪問

- ハノイ市内で、JICA（国際協力機構）ベトナム事務局や、ベトナム日本人材開発インスティテュートを訪問しました。
- 第一線で日本による支援事業に携わる方々から、貴重なお話をうかがいました。JICAの担当者、江原育美さんの言葉、「国際協力を日本の文化に」が、深く心に残りました。日本人材開発インスティテュートでは、インターンシップの学生さんから体験談を聞くことによって、国際貢献に親近感が持てました。
- 午後は、一柱寺やホーチミン広場を見学しました。



◇ 4日目（1月23日）フエ大学訪問とフエ王宮の見学

- ハノイから古都フエに移動し、国立フエ大学観光学部を訪問しました。関高校による訪問は昨年に引き続き2回目です。岐阜県とトゥアティエン・フエ省とは友好提携関係にあります。関高校の訪問も提携事業の一環です。
- フエ大学観光学部では、たがい英語口頭プレゼンを行ったあとに、シャインカービングのワークショップを行いました。ファンボイチャウ高校でも行ったこの試みは、ビジネスと社会貢献の両立を図る「せきの未来・社会貢献プロジェクト」の一環として行っています。
- お昼をはさんで午後は、フエ大学の学生さんの案内で、世界文化遺産フエ王宮を見学しました。19世紀に建設された王宮やその城壁、内部に残る様々な文化遺産に関し、学生より熱のこもった説明がありました。質疑応答はむろんのこと、自分たちの日常生活や将来の夢などについて話が弾み、予定された見学時間を大幅に超えました。
- 現在、岐阜県とトゥアティエン・フエ省は、フエ王宮の観光振興のためのワーキングチームを起ち上げました。私たち関高校も、高校生目線の観光提案をワーキングチームに提出する予定です。



◇ 5日目（1月24日）世界遺産ホイアンの町並み訪問

- フエからホイアンまでは自動車ですら3時間ほど。東海岸を一気に南下しました。海岸沿いの田園地帯や漁村の光景は多様で、見飽きることはありませんでした。
- 世界文化遺産ホイアンは、かつて日本町のあった場所で、風情ある街並みが残されています。海のシルクロード博物館や福建会館などの史跡を訪ね歩きました。
- 現在、ホイアンの古民家はみやげ物店や飲食店として利用されています。1年生のSGH活動で学ぶインバウンド誘致を考える上で、大いに参考になりました。



◇ 5日目（1月24日）夜、6日目（25日）朝 ベトナムからの帰国

- ダナンでの買い物・夕食後、ハノイ経由で中部国際空港をめざします。日本に近づくとだんだんと夜が明け、早朝、無事到着しました。

◇ 生徒の感想

- ファンボイチャウ高校では最初に暖かい拍手と歓声で迎え入れてくれてとても嬉しかったです。手を引いて教室まで案内してくれたり一緒に座ろうと声をかけてくれたり、多くの気遣いに頭が下がるばかりでした。生徒の皆さんがたくさん話しかけてくれたおかげで緊張がほぐれました。プレゼンテーションの時間にはベトナムのことをいろいろ教えてもらえて楽しかったです。またこの英単語は日本語でなんというのかという質問をたくさんしてもらい、その学習に対する意欲的な姿がとても印象的で見習わなくてはならないものだと思います。
- JICA ベトナム事務所ではお話を聞いて、開発途上国の現状やベトナムの基礎情報を知ることができました。地下鉄を作る事業の話がありましたが、市内観光をして地下道や横断歩道・歩道橋などができると観光客もより安全に観光ができるのではないかと思います。また高校生の私たちが日本にいてもできる国際協力も教えていただきました。今回の研修で全ての国が日本のように整った環境ではないという実感が湧いてきたので、開発途上の国々の現状を調べてみたいと思いました。
- フェエ大学でも学生さんが暖かく迎えてくれました。プレゼンテーションでは関高校のどの発表にも大きな反応をしてくださり、発表しやすい雰囲気を作っていただいたと思います。シャインカービング体験では、ファンボイチャウ高校での経験を生かしてより丁寧な説明ができたと思います。フェエ市内の観光では大学生の方がこちらの質問全てに丁寧に答えてくださったのでとても嬉しかったです。分からないことや疑問に思ったことをすぐに聞いてその場で解決できたのでよかったです。とても貴重な体験がたくさんできました。
- 6日間に渡るベトナム研修で、僕は日本にはできない素晴らしい体験をした。その1つが、現地の学生との交流だった。
2日目にファンボイチャウ高校を訪問した。歓迎のセレモニーでは、こちらがスピーチをするたびに大きな拍手や喝采があり、歓迎されているということを強く感じた。また、ベトナムの人は皆フレンドリーで、優しく僕たちに話しかけてくれた。そのおかげで僕も話しやすかったが、少しかたい部分もあったようで、**You make yourself at home.**（家にいるように振舞ってよ）と言われたりもした。しかし、交流はとても楽しい時間だった。お互いの国、学校のこと、自分自身のこと、多くのことを話した。
4日目にフェエ大学を訪問した。こちらの学生の方々もとてもフレンドリーだった。中でも、

シャインカービングを一緒にしたダニエルとはすぐに打ち解けた。ダニエルは昼食を食べているときに、「レオ、レオ」となんども喋りかけてきた。料理のことやベトナムに来ての感想など、話は尽きなかった。時々、僕は言われたことが理解できないときがあった。そんな時、ダニエルはゆっくりと言葉を繰り返してくれた。その親切さを嬉しく思うとともに、自分の英語の力はまだまだ未熟なのだと痛感させられた。しかし、大切なことは正しい英語を使うことではなく、喋ろうとすることだ。こちらが一生懸命喋れば、相手に気持ちは伝えられる。そのことを身をもって知った。

多くの人と出会い、文化や考えの違いに触れることが出来たベトナムでの海外研修。本当に充実した日々であり、視野を大きく広げてくれた6日間だった。できることなら、また来年も参加してみたいと思う。

■僕は、ベトナムでのファンボーイチャウ高校、フエ大学の訪問を通して、英語で会話をする難しさとともに異国の方々と関わる楽しさを感じることができました。

ファンボーイチャウ高校やフエ大学の生徒は非常に友好的で親しみやすい方ばかりでした。そんな中で、最初は不安だった自分も積極的に交流することができました。交流する中で自分が伝えたい言葉を上手く英語で表現できなかったり、はっきり発音しているつもりでも相手に伝わらず、文面で見せてやっと伝わるなどということも多々あり、自分の実力不足を実感させられました。

そんな中で、海外で生きた英語を聴くことの重要性を再認識しました。またコミュニケーションの難しさだけでなく、それ以上に会話をする中で共通の話題があったり、日本についてすごく興味を示してくれたりして、コミュニケーションの楽しさも感じました。

訪れる前までは、どんな雰囲気の人がいるのだろうか、と想像がつかなかったのが、実際訪れてみると自分と同じ年頃で勉強を頑張っていたり、スマートフォンを使いこなしていたりと、とてもかけ離れた存在ではないことを実感しました。それと同時にグローバル化が進んでいるということを肌で感じるすることができました。これからは、主体的に相手に話しかけ、コミュニケーションを取っていく姿勢を通して英語力を高めていきたいです。

